

町田市の
博物館等各種文化施設等の
現状と課題

2010年9月29日

本委員会の検討事項の範囲

町田市立博物館の
現状

町田市にある
博物館機能を有する
各施設の状況

市立博物館単体ではなく、
各施設の連携を視野に入れた、
新しい博物館の在り方



町田市立博物館の
現状

施設の概要



所在地
町田市本町田3562

開館年
昭和48年(1973)

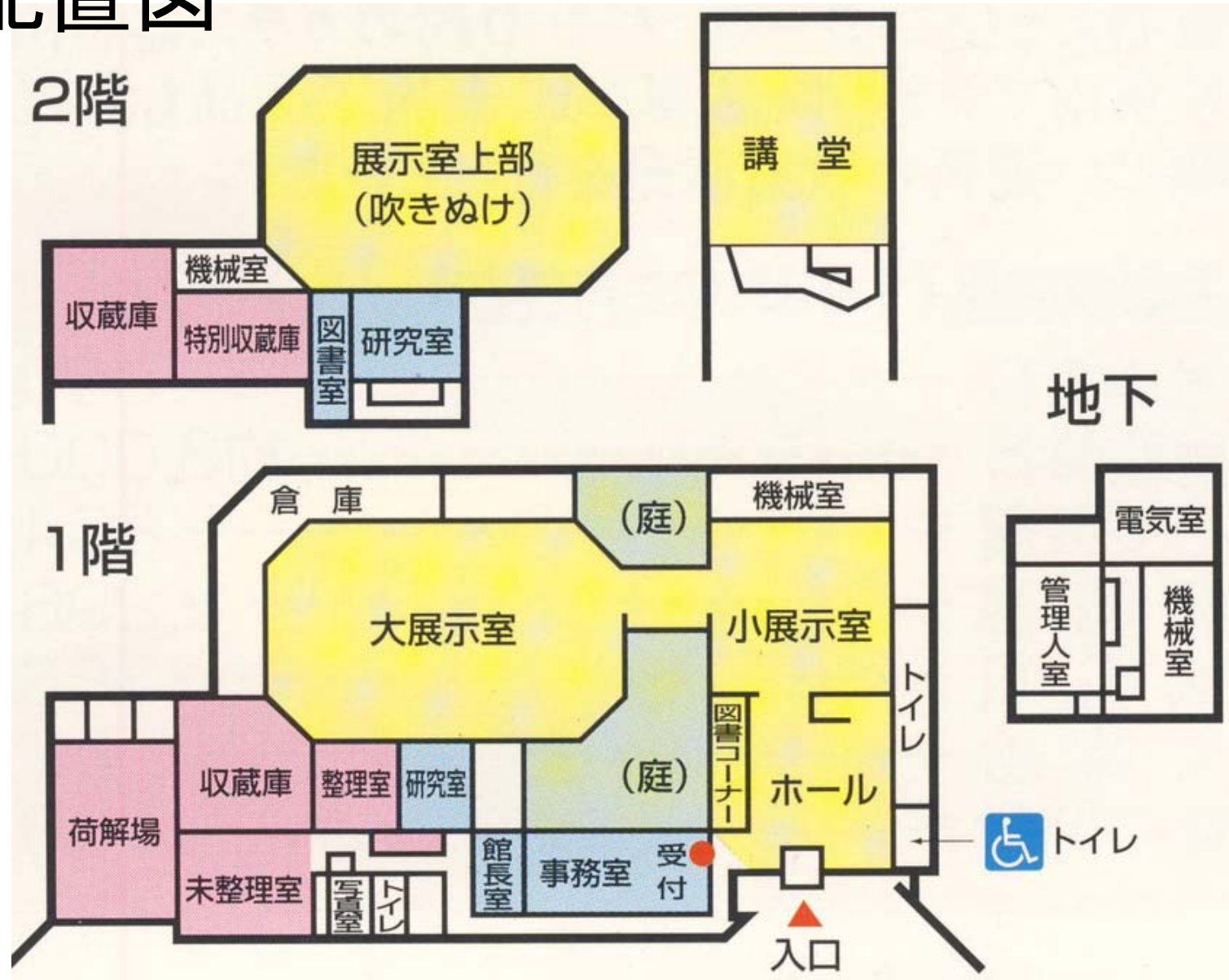
敷地面積
4958m²
(遺跡公園は含まない)

建物延床面積
1410m²

展示面積
337.5m²

収蔵庫面積
172.2m²

配置図



エントランス



小展示室



大展示室



講堂



特別収蔵庫前土器



特別収蔵庫ガラス



1階整理室陶磁器



国際版画美術館内収蔵品



旧忠生第5小学校民具倉庫



コレクションの現状

- ◆ 70年代後半～90年代に活発に収集、寄贈も多かった。
- ◆ 国内では最大級の質と量のコレクション(チェコガラス/中国ガラス/大津絵/東南アジア陶磁)がある。
- ◆ 風刺画錦絵等、近世・近代戯画、漫画資料関係資料は田河水泡コレクションを軸に増やした。
- ◆ 鼻煙壺は博物館の特色の一つ
- ◆ 土器・民具など郷土資料は自然発生的に集まった。
- ◆ 養蚕機織図は、養蚕は幕末・明治の主要な産業で町田地区の当時の様子も伺える。

コレクションの概要

考古資料	6336	点	整理中
民俗資料	4200	点	
ガラス器	985	点	1982年「チェコスロバキアのガラス」展を開催後、市内外から好評を頂いたことから、収集開始。
陶磁器	3562	点	岩崎安吉氏・山田義雄氏・中村三四郎氏による寄贈資料をもとに、陶芸の歴史を紹介できる様に資料を収集。
風俗画	585	点	田河水泡氏の寄贈を元に発展
西洋時計	108	点	
その他 (仮面・染織等)	212	点	

コレクションの概要



異形台付土器(東京都指定文化財)

コレクションの概要



唐箕



仮面(メキシコ・本間コレクション)

コレクションの概要



白地青被葡萄栗鼠文瓶



赤地鹿文ゴブレット

コレクションの概要



青花山水図盤



加彩婦人(中国漢時代)

コレクションの概要



見かけは怖いがとんだいい人だ




鬼の念仏

展示活動の現状

- ◆現在、常設展示はない。企画展示を中心に展開。
- ◆企画展の7～8割が美術工芸系。
- ◆郷土資料は集客力が弱いが必ず企画に入れている。

本年度の活動

『館蔵美術工芸品展 花の華』	2010年3月20日土曜日	～5月9日日曜日
出前博物館		
「町田の植物 -草と木の博物誌-」		
* 第一会場 町田市フォトサロン	8月21日土曜日	～9月5日日曜日
* 第二会場 町田市立金井小学校	9月16日木曜日	～9月19日日曜日
出前博物館		
「町田市立博物館収蔵品展」		
* 会場 桜美林大学資料室	2010年11月6日土曜日	～11月27日土曜日
「岩田ガラス(仮題)」	2011年1月8日土曜日	～3月6日日曜日
「美在掌中(美は掌中に在り)-中国の小さな焼きもの」 「町田市立博物館所蔵東南アジアの小さな焼きもの」	2011年3月19日土曜日	～5月8日日曜日



町田市にある
博物館機能を有する
各施設の状況

博物館機能を持つ施設

施設名	収集資料
市立博物館	郷土資料と世界文化史的視点からの美術工芸資料
版画美術館	版画を中心とした美術作品及び資料
ふるさと農具館	市内で使われてきた農具及び農業の歴史に関する資料
がにやら自然館	昆虫等標本
萬葉草花苑	万葉集に詠まれている草花等
かしの木山公園	資料の収集・保管はしていない
考古資料室	考古資料、発掘調査に関連する記録写真・図面、発掘調査報告書
自由民権資料館	市内歴史資料・自由民権運動関係資料
フォトサロン	資料の収集・保管はしていない
文学館	文学資料

博物館機能を持つ施設

美術

市立博物館

歴史

版画美術館

フォトサロン

考古資料室

自由民権資料館

ふるさと農具館

自然

がにやら自然館

文学館

萬葉草花苑

かしの木山公園

博物館機能を持つ施設

施設名	開館年 (西暦)	建物延床 面積(m ²)	収集資料の 種類	資料の総数	利用者数 (人)	学芸員 (非常勤)	決算額 (上段: 支出、 下段: 収入) (千円)
町田市立博物館	1973年	1,410	歴史、民俗、美術	約10000 点	16,426	4	60,986
							685
町田市立国際版画美術館	1987年	7,840	版画を中心とした美術作品	約21000 点	154,345	9(1)	141,147
							27,623
町田市フォトサロン	1999年	286	資料の収集はしていません。	資料の収集はしていません。	26,816	1	11,186
							225
がにやら自然館	1997年	392	標本・園内動植物写真パネル	755点	35,793	0(1)	15,308
							0
萬葉草花苑	1988年		万葉集に詠まれている草花など	330点	27,337	0	1,548
							0

博物館機能を持つ施設

施設名	開館年 (西暦)	建物延床 面積(m ²)	収集資料の 種類	資料の総数	利用者数 (人)	学芸員	決算額 (上段: 支出、 下段: 収入) (千円)
かしの木山自然公園 管理棟	1990年	300	資料の収集は していません。	不明	37,906	0	7,415 0
町田市考古資料室	1991年	482	考古資料、発 掘調査に関連 する資料	11,300箱	407	0	1,307 0
自由民権資料館	1986年 (1996年 増改築)	911	市内歴史資 料、自由民権 運動関係資料	(約30,000 ~50,000点)	3,759	1(3)	23,672 620
町田市ふるさと農具館	1992年	405	農具や農業の 歴史に関する 資料。	446点	28,783	0	6,005 0
町田市民文学館	2006年	2,156	文学資料	15,076点	48,961	2(4)	58,525 2,661

国際版画美術館



日本でも珍しい版画を中心とした美術館で、約2万点の収蔵品を誇り、年間を通じてさまざまな展示をごらんいただけます。また版画の制作ができる工房や、美術活動の発表の場である市民展示室も備えています。

考古資料室



市内の遺跡から発掘された土器・石器等の遺物や発掘調査の写真・図面などの調査記録の収集、保管、展示を行っています。

自由民権資料館



自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集、保管、閲覧、また常設展示「多摩の民権/町田の民権」のほか年2回の企画展開催などを行っています

。

ふるさと農具館



農家の人が使ってきた農機具
や生活道具を展示しています。

がにやら自然館



自然資源を生かした自然観察会や体験学習などができます。施設内には、講習室や展示室などがあります。

町田市フォトサロン



武蔵野の面影をとどめ、心やすらぐ景勝の地・薬師池公園内にあります。展示室では、フォトサロン主催による企画展示を行っています。また写真に関する講座などのイベントも行っています。

萬葉草花苑



万葉集に詠まれている70種の草花のほか260種の山野草が植栽されています。入園は無料です。

かしのき山自然公園

成瀬、高ヶ坂、南大谷にまたがる面積約5.5ヘクタールの緑豊かな自然公園です。シラカシ、クヌギ、コナラなどが生い茂り、野鳥、昆虫も多く、尾根道からは丹沢の山並みや町田の町並みが望めます。また「かしの木山自然公園愛護会」による、各種観察会や自然講座、工作教室が開催されています。

町田市民文学館



故・遠藤周作氏のご遺族からの蔵書・遺品のご寄贈がきっかけで誕生し、小説家八木義徳氏や桜田常久氏の旧蔵資料など、町田市ゆかりの文学者の寄贈資料など収蔵しています。町田の文学資源をつなぐネットワークの要として機能するとともに、展示や講演会を通じて文学の魅力を伝え、「ことば」のもつ力との出会いをお手伝いします。

<町田市立博物館について>

- ◇市立博物館を知っている人は全体の7割。行ったことがある人は4割
- ◇訪れない理由は「これまできっかけがなかったから」「交通の便が悪い」
- ◇分野別の関心は、「歴史」が高く、「美術」が低い。
- ◇70歳以上の高齢者は博物館をよく訪れている(65%)

＜博物館や類似の展示施設について＞

- ◇町田市にある施設で、国際版画美術館の認知度、来館者、今後(も)行ってみたい施設として特に高くなっている。
- ◇ 萬葉草花苑は、行ったことがある人は3割程度、今後(も)行ってみたい人が、約6割に上る。
- ◇ 地域の歴史について学べる施設がどこなのか分かりにくい。

<今後の博物館のあり方について>

- ◇「書籍・文献の閲覧」、「講座や体験学習会への参加」、「講演会やフォーラムへの参加」のニーズが高い。
- ◇「資料の収集活動に参加する」、「博物館活動の補助、支援」、「学芸員を直接訪問し質問したりする」は、相対的に低い割合となっている。
- ◇博物館の立地「大きな公園の中やそれに隣接する場所」が最も多くなっている。
- ◇「広くてゆとりがあり、リラックスできる雰囲気がある」ことが求められている。

市立博物館単体ではなく、
各施設の連携を視野に入れた、
課題と方向性

博物館機能に関する課題

■課題

- ◇市立博物館施設の老朽化・狭隘化
- ◇博物館機能を有する施設が組織的にも分散し連携が弱い

■今後の方向性

- ◇“自然とのふれあい”や“体験”に関する市民のニーズが高い。
- ◇体験や参加は、市民が文化活動を始めのきっかけが求められている。

運用における課題

■課題

- ◇地域資源活用が少ない
- ◇地域資料、考古・歴史資料の収集・整理・展示が弱い

■今後の方向性

- ◇各館がそれぞれの独自性を発揮するとともに、セントラル機能を有する情報拠点を確立することにより、町田市の文化やそれに関連する情報の収集・発信ならびに企画や活動に関するネットワーク化を図る

市民視点からの課題

■課題

- ◇資料陳列型の従来型博物館への関心が薄れている
- ◇博物館への市民の期待と実態に差

■今後の方向性

- ◇町田市の博物館として、人間が生きていくための昔からの生活の知恵などが受け継がれてきたものを、伝えていくことは大きな役割。
- ◇「広くてゆとりがあり、リラックスできる雰囲気がある」博物館、市内外で連携し市民が共に学べる場が求められている。

環境変化への対応の課題

■課題

- ◇教育機能、地域貢献といった新たな課題への対応が遅滞
- ◇館内外の人材活躍の場の提供が不十分
- ◇新たな博物館のあり方の再構築が必要

■今後の方向性

- ◇学芸員は社会環境の変化を受けて、新たな役割を積極的に担っていく。
- ◇専門的知識と一般の人との間に立ったコミュニケーターとして活躍していく。
- ◇地域人材と資源の活用や観光など産業分野との連携による文化活動の活性化。